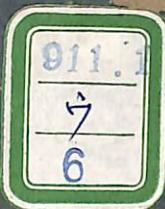


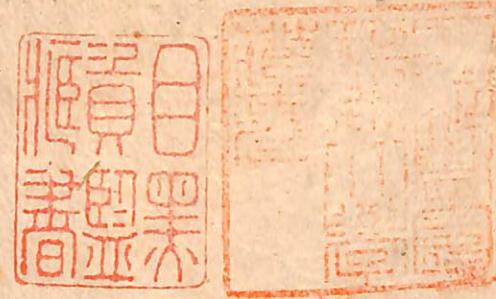
浦 増

新秋秋乃夜覺

川

六





○

河

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

古今
船出とけまろ原へはと川のせをまく衣をやア
おき今
さうの原つまてあはて奈川へつむかそくまくくるもん
いつまわすにあまくわらう

古
石川 始義川と云
いづし・元田の弟
いち川 一説播磨をまつ
いち川 や姫の小川の清まれ月もかうれをゑてそむ
いち川 一説播磨をまつ
いち川 そのうまする妹とうひどき川のとねるけま
いち川 月野鶴杜
かわの陸高と黒麻川月のやくもやあれまん

古
生田

生田

生田

生田

生田

生田

生田

生田

いくた川 いはのまは女とよつて男二人あり一人
の男性へひつぐり一人へちぬとめんひきの真
男とも年よつて鳥取ふくとくせりやまゆ
女せりひまくねりあ川りつぶひりうとす
てそよつひんとばして女のせりめつるう
ひりよつひくねりあ鳥をとまゆて居え
人よまんとつまゆてとそりまよ一人へじ
らのめがりうとひりうがのめがりうをす
つるもわぬよかへりうく女
ひくね秋叶あけんのまがまの川をながめりう
く後く川はまへ男うらも因みよあだね

と多く大和朝後からも見えてゐるが、古事記

徳をすくねあひ仍る引手 之が 水鳥

舊辛銓舊の川も
いす川舊の川も
徳神風や一

ちやかに後り 楊 春 細の後 山 稲

承月・立葉松の落葉
松神ノ夢

神代 宮柱の下の川 神代の川
宮柱の下の川 神代の川

セイの老成・白雲・秋の景候合・神路と日
長安夏令

やまと川後村吉はもと吉田内藤又名久元

本のよからず 透板の宣代わらひの

Digitized by srujanika@gmail.com

卷之三

卷之三

卷之三

川
あそかる

よつてはばくの井川也のうやう

川、江、淮、四、方、之、事、務、君、之、政、

千鳥
夷良
病

おまかせの事は、さういふ事の爲めに、
多分にあつたのである。

ま本
アシタハナタマサキタニシテアシタハナタマサキタニシテ

ある。あるの風
万
凌のとうりは川
流き

增補卷之三

卷之三

卷之三

・ひの川のゆうきれる事へて山の暮花の略 あは

因幡國備
山川

出雲
いづも川
島之内川
万葉

・いわ川をかきくらげのふたての
夏 石

川の事
徳高の作

日
石見
門
之五

小豆の川を越えて人をも

播磨
印南
山川川の
ハーフー石の中の
那須海日浦日経日
山川のやまと山川のあらわせにす
古店

卷之三

卷之三

日本
冬の川の雪の川や水と雪の小舟をまつてはこう
岩波
いふる川 美
雪の川 遠くの雪の山をうめこむと岩波川の雪乃そら風
神登波

未
本居宣長著
本居宣長著

風飛 キー・エ・サ・カ
山根

らく西川を引ひて流よきり清く未日ひまのれす者

義和

千年

ちとせ川 ハ

木本

千草

らくさの川 滝

志那 千草

あさか水底さるらくさの川が我多くね方もひくそゑへるが

音布引

れのじま川 滝

音布引

みよ上ハ滝のみよてもむせび布引川のまことや

音布引

わらや川

音布引

わらや川の音がれどもかくはまゆるをうき

音布引

めぐ川

音布引

めぐ川の音がれどもかくはまゆるをうき

音布引

をとハ川

音布引

八重にあ枝かくはとく

音布引

柳

音布引

柳の音がれどもかくはとく

音布引

鷺

音布引

鷺の音がれどもかくはとく

音布引

鳴

音布引

鳴の音がれどもかくはとく

音布引

月

音布引

月の音がれどもかくはとく

音布引

雲

音布引

雲の音がれどもかくはとく

音布引

冰

音布引

冰の音がれどもかくはとく

音布引

松

音布引

松の音がれどもかくはとく

音布引

岩

音布引

岩の音がれどもかくはとく

音布引

波

音布引

波の音がれどもかくはとく

音布引

山

音布引

山の音がれどもかくはとく

音布引

水

音布引

水の音がれどもかくはとく

音布引

田

音布引

田の音がれどもかくはとく

音布引

官

音布引

官の音がれどもかくはとく

音布引

神

音布引

神の音がれどもかくはとく

音布引

川

音布引

川の音がれどもかくはとく

音布引

伊

音布引

伊の音がれどもかくはとく

卯年・五月晦・冰
さやかの松葉合

おれの川を流すすとくらへておれのまへ

舊
草生
をくの川 浦原 海日 傑日

里
忘
社のゆきうまわせの川並に山接してけと
えす

すれ川 満川まわせと見ながるむかの山並み
はく

うあい川 まくらしやたのとも みくわさ
ま木

君はうううあい川あうてわすくみせんもあうか
事
忘

うれ川 うれ川まやおれすたのうれのむかの浦
齋
寶衣

かも川 かの川 らしきもかの川のうとき
あ

柳 内原 柳花 美浪 美花 高音

あひま ううう え接 外接

月・ばく・若・千鳥・ゆたかに
麻のゆくと・ぬくの声・よゐの神・若
かの川・約・船と湖・鷺・ちよめあら
うき・うき・ねく・うき・秋のまへ・うき
うき・坐野・候合・紅の森・ふか篠・社
うのあい・七味のあくと
川・今湯・川奈・麻の流れ・さとう・さぬき
うの川・くののす・うの川・ももううとこつ
いづりてすうへ・柳・川・い・財・え
若・建・移・水・五采・花・世・よ・り・月・小船・う

九月の月

彦摩屋山

七瀬の渡

御の白波

梅は

春の

花

今

久

中

の

久くは中ひ生る里されへまほのまことわじつうふ
まきつるくや本葉あらえあ井川下へうづのりうちとく

月

試屋

川

柳

千鳥

・ち

・浦

月

神市

川

蛭

・く

・波

・か

月

鷺

・わ

・よ

・巣

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

月

片足羽

川

・す

・か

伊勢 湾

アリ川

名島うちても往り

勝 千鳥

水引

松葉島港

海は先からして海のまへる

佐渡へ

お祭 玉手折とみわくとまく川まくハ神すもあくアマガキス
巡 名取 建名

アリ川

・海うて仙う小山へ往り・やか

大との本代とアリ川とまくとて我なりする
賤 名取

・三段

・花・春月・春葉

・當

岩比江葉・月・春葉

・佐波

・理本・春葉

・七瀬八瀬

・郡

・里

・鷺湯日

アリ川津・理本あくハハルセトカミタケトモアシ

わきあくにとれ

傳

奈加良

菊

梅

梅津

アリ川

梅・柳

アリ

梅

アリ

梅

アリ

桂川

袋

希

六田

アリ川

一の段

梅

アリ

梅

アリ

波

蟻

アリ

波

アリ

波

藻

木庫

アリ川

二の段

梅

アリ

梅

アリ

梅

まゆ 宇波川

宇波川

高葉

高葉

まゆ うへせ川

うへせ川

高葉

高葉

まゆ うへ川

うへ川

高葉

高葉

まゆ うへ川

うへ川

高葉

高葉

まゆ まゆ

まゆ

高葉

高葉

あひの川ひそひする音一とひそくもかきのねうづける

丹波
天雲
あくら川
藤枝
日

處集
・四方の海もしく社あらえを川ひくは彼の立派をたれ
・直房

あうの川原 千葉 海
あ東

従前 大法 宗派

行水之法

思ひ川

月
季
水
鳥
秋

同中書水部丞

理本
うぶん
後
こう

卷之三

ほ花
さく川綾とあつて水の深乃う

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

御前

おまの川アマノカワ

二十一
卷之三

名來此名所 持はとゆ

川中島の戦役

・ 本川 路中
かくえい 人間の本心の如き

赤鉢 大野
いの川原 白居の月

おのの川原
の暮の日

高麗
草
卷之三

日 久
車 素
外
通
き
休
ま
す

月
東川
東川
東川

森
久川
谷
吉柳

१
२
३
४
५
६
७
८
९
१०
११
१२
१३
१४
१५
१६
१७
१८
१९
२०
२१
२२
२३
२४
२५
२६
२७
२८
२९
३०
३१
३२
३३
३४
३५
३६
३७
३८
३९
४०
४१
४२
४३
४४
४५
४६
४७
४८
४९
५०
५१
५२
५३
५४
५५
५६
५७
५८
५९
६०
६१
६२
६३
६४
६५
६६
६७
६८
६९
७०
७१
७२
७३
७४
७५
७६
७७
७८
७९
८०
८१
८२
८३
८४
८५
८६
८७
८८
८९
९०
९१
९२
९३
९४
९५
९६
९७
९८
९९
१००

地圖解説書
卷之三

三

四

五

六

七

多和子にとれり

佐賀 鮎川

佐賀

吉今

初陽川・立川乃て二ある校年とくとくもあひまへをある校

至

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

徳

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

佐賀 鮎川

佐賀

居・舟
立島丸・榜衣 猛
・君・弓
千鳥・舟橋 岩
・行那徒合 男山
カウラレセタウリヤシモウルヘンテアリ川五ツノ我ハナヒタリ
タタクハキヒトタリ
芥 芥
あくの川 一本阿久乃 落松 六
・月・漸々・スズキ
落葉
アキモトアキモト川五ツノ我ハナヒタリムリノホモアリタリ
音跡
あと川 木
キモトアキモト・アキモト
落葉
アキモト川五ツノ我ハナヒタリムリノホモアリタリ
阿久乃川
アキモト川五ツノ我ハナヒタリムリノホモアリタリ
門の川 一の川系 万
一の川大 木
木の川のアキモト 柳 木のアキモト川
柳
柳葉 木
柳葉 木
柳葉 木
柳葉 木

ひがひ えの清瀧川を度て谷筋うちあまつアマツト道
わねき みゆの冬立誠くと宿さへ清瀧川とせよい

貴布林

きづ川

多々御あるを後り黒瀧の波よ

か或はほのゆれすけまくらもあくに急

にうよなと往り一未だに今萬代と

あり音西瀧乃波

サタ瀧川あは流

あり音西瀧乃波

サタ瀧川あは流

川社サカニ川上の神カミ大山田オシタタケ山立日

波をほめあうきひりそめ
このやまへはの瀧も秋も秋もあくわくらむあくわくらむあくわくらむ
口カミ山ヤマ奥カミ山ヤマからてある瀧はまの玉教タマノミタガタおみせひそ

あまつてあまつにとひり

寝スル航カミ

素ス

きづ川

象イシ

小コト

みどりのと川

五月イチゴ

月ツキ

さしだるのと川

五月イチゴ

月ツキ

合ハナ

まひのと川

月ツキ

とひり

よのとひりのと川よ月波い象イシのと川アリと波をもあらぬ

音

清セイ

きづ川

象イシ

万マツ

川

音オノ

航カミ

船ボウ

ま

ま

ま

ま

ま

當タカ立タケ航カミ

月ツキ

と

ひり

と

ひり

と

ひり

吉ヨシ

まく川

象イシ

里シテ

わ

酒サケ

の袖 之と演の声 之と見乃声 行

アラカニヤマシタト・スル・カニ・アリ

卷之三

かづく
川の川
花吹きの煙
かづく
花吹きの煙
かづく
花吹きの煙

野鶴山牧日杜日因日海日里日

主著する所の川流は小河を以て其の下流に

水名川 慶中

耳敏
川
足
大ねこ
七瀬乃内す

三游
金川
万
雄
次六
五月
行役
万
信
游
游

卷之三

22

又に爲め
其の事は
あらゆる所
の處に
廣く傳へ
てゐる

國立民族學研究所藏

屋川 素の神

カホ
かほ

刺
川
之
事
也
至
日
五
月
辰

中へなと大あらまわし川河をあてて五十九

滝川 勝元・君
秋のゆう紫

山と水をもてて、隕川を源とするが、左のすむら(すみや)。

江戸川原建葉柳枝郭

五月氣蒸
六月水深
七月水滿
八月水深
九月水滿
十月水深

伊波

水屋

名寄

の川

旅
宿

日

喜
々

山
あ

落
下
三草

みくの川

千鳥

日

赤
豆

豆
小

水屋

山

ま
の川

喜
々

山
あ

喜
々

豆
小

水屋

山
あ

豆
小

豆
小

水屋

山
あ

西
の
花
・
流
・
水
一
・
雲
の
川

里
花

流

日

船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

赤
豆
船
四
宮

赤
豆

水屋

山
あ

本居宣長著
近江

アリ川 曲有無 箕輪・三高音 音 小行 後半
赤根

佐賀

アリの水と此の流す水アリ内のみ代乃古道わくは向てまう

後半

同

深見

セミのか川

轟今

カスガ川をアユ・山松又・高・紀の竹・山松

轟今

吉井

轟今

アリ川や蟹の小内清けまへ月よりうをまひてそと

轟今

猿河 勢奈 ま木 御前 あさ川やセ川の底を層とす里人かなとそー

轟今

アシカ川・アシカ川の底を層とて紹和や桂京の下に

轟今

アシカの川・アシカの川の底を層とて紹和や桂京の下に



महाराष्ट्र राज्य विद्यालय
ग्रन्थालय संग्रहालय
विद्यालय संस्कृत विभाग
ग्रन्थालय संग्रहालय
मुख्य प्रबोधन संकाय
मुख्य प्रबोधन संकाय
मुख्य प्रबोधन संकाय



本
多
千
鳥
も
相
手
の
事
業
を
あ
さ
ぎ
て
ま
る
と
う
か
く
の
川
下
流
に
あ
は
れ
た
と
い
ふ
事
業
を
あ
さ
ぎ
て
ま
る
と
う
か
く
の
川
下
流
に
あ
は
れ
た
と
い
ふ

